

頭痛の区分 頭痛の治療に使われる薬 頭痛の放射線検査



くす(樟)は常緑の広葉樹で、熊本城内に多く見られます。種々の精油成分を含み、良い香りがします。樟脳をはじめ色々な薬用成分が抽出されるなど有用な薬用樹でもあります。また、くすし(薬師)とは、医師のことを指し、くすしぶみ(薬師書)は医術に関する書物のことを言います。本紙はこのくすにあやかり、健康な生活を送るために情報を提供します。気楽に読んで健康を守りましょう。

【頭痛の放射線検査】

殆どの頭痛は器質的には異常がないと言われていますが、検査として挙げられるのがCTスキャンやMRIです。

■CTスキャン

撮影装置のベッドが動いて数分で終了します。コンピューターにより画像を即座に表示しますので、フィルムに焼き付け診断します。頭蓋内出血や脳腫瘍、頭蓋骨の骨折に性能を発揮します。

■MRI、MRA

ベッドに寝ているだけで、頭の中の血管が簡単に撮影できます。当院では健康な方に「脳ドック」のMRI検査を行っています。

■血管撮影装置

頭痛の原因となった破裂後の動脈瘤では、カテーテルを使ってコイル等により塞栓し再発しないように処置します。これらは血管撮影装置で検査を実施した後、治療が行われます。

以上のようにCT、MRI等の装置で頭を検査して、脳腫瘍、動脈瘤、その他の異常がないことを確認しています。

(放射線技師長 天野 一弘)



(CTスキャン装置)

【頭痛の治療に使われる薬】

頭痛の原因は ◆ 風邪や発熱 ◆ 片頭痛 ◆ 神経痛 ◆ 肩こり ◆ 脳腫瘍、くも膜下出血 ◆ 緑内障、副鼻腔炎等々で、その原因と症状により使用される薬も異なってきます。

■バファリン、ロキソニン、セデスG、ボルタレン等
風邪や発熱の際よく使用される痛み止めで、片頭痛、緊張性の頭痛にも効果があります。

■カフェルゴット、クリアミンA、ジヒデルゴット
血管収縮作用を示し、脳の血管が過度に拡張することで起こる片頭痛に用いられます。

■抗不安薬(デパス、セルシン等)

ストレス、不眠、不安のある場合、気持ちをリラックスさせることにより緊張からくる頭痛に効果的で、同時に肩こりを解消する作用もあります。

■筋弛緩薬(ミオナール、テルネリン)

筋肉を弛緩させて血流を良くすることで肩や後頸筋に凝りや圧痛のある頭痛に用いられます。

■抗てんかん薬(フェニトイン、カルバマゼピン等)

神経痛が原因となって起こる頭痛は、他の薬剤では効果がなく、抗てんかん薬を使用します。

以上の薬が一般的に使用されるものですが、鎮痛薬を自己判断で多用すると中毒症状を起こしたり、重くなった病気の発見や治療が遅れるかもしれません。

普段の生活で気になる頭痛がありましたら、遠慮なく医師や薬剤師に相談するようにしましょう。

(薬剤師 廣瀬 仁美)

診療時間 8:30~17:00

(診療受付時間 8:30~11:00)

ただし、急患はいつでも受診できます。

(診療科目) **総合医療センター**(総合内科、血液・膠原病内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、神経内科、呼吸器科)、**心臓血管センター**(循環器科、心臓血管外科)、**消化器病センター**(消化器科)、**救急医療センター**、精神科、神経科、小児科、外科、小児外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、気管食道科、放射線科、麻酔科、歯科・口腔外科

(診療科の特色) : 脳神経外科



外科医により胸やお腹の手術が行われるように、私ども脳神経外科医は脳の病気に対する手術治療を専門とします。

当院では、良性や悪性の脳腫瘍の摘出術、くも膜下出血やその他の血

腫に対する手術、脳梗塞予防のための血管バイパス手術、顔面の痙攣や頑固な痛みを改善するための手術など幅広く手がけています。

手術顕微鏡やその他の手術支援装置の著しい発達により治療成績はグンと良くなっていますので、これまで通りの社会生活に完全復帰出来る方も多いのです。

「脳」の手術に対する大きな不安は無理ありませんが、今や決して未開拓の治療分野ではないので過度のご心配は無用です。

【頭痛の区分】

頭痛の性質は他人には分かりませんので、最もよい診断医はあなた自身です。以下を参考にして下さい。

《心配のない頭痛》

①肩こりの頭痛

「頭が重い、スッキリしない」「後頭部からしめつけられる」「目も見えにくい」「記憶力がなくなった」「うつ気分」ストレスや姿勢等により肩や首の筋肉が過剰に緊張することが原因で、「痛み」ではなく頭重感が主です。一日中持続しますが、特に朝方や雨天時に悪化します。また、水枕をして寝てばかりでいると更に悪化します。肩や頸部を温めてマッサージや運動をして下さい。自律神経失調症やうつ病と間違われることもあります。

②片頭痛

「ズッキン、ズッキン」「がんがん」頭皮や脳内の血管が一時的に拡張するために起こるもので、目の奥やコメカミに心臓の拍動と同じ調子の痛みを感じます。特に、コメカミ部分では血管の拍動を感じ、ここを押さえると痛みが軽くなります(いわゆる“鉢巻きを締めると良くなる”)30分から数時間の持続で繰り返し、よく吐き気を伴います。

③神経痛

「ズキ、ズキ」「キリ、キリ」「チク、チク」頭皮の神経からくるもので、キリや針で刺したように強く痛みます。耳の後ろから後頭部にかける表面の痛みで、手や櫛で触れたり、また首を傾

けると誘発されます。瞬間的な痛みを繰り返し、肋間神経痛や座骨神経痛と似たようなものです。

《手術の必要な頭痛》

④くも膜下出血

初めて経験する、殴られたような激しい痛み(①と区別)で持続性で消失しません(②③と区別)。発症は、何時何分に始まったと言えるほど突然です。ほとんど、吐き気を伴います。一時的に気を失ったりしますと、もう間違いありません。直ちに救急車で脳神経外科施設へ来て下さい。

⑤脳腫瘍

日を追って頭痛は徐々に増強してきます(①②③は基本的に増強しません)。何故なら腫瘍が大きくなるからです。しかし、頭痛のないことも珍しくありません。

頭痛の区別が出来るようになりましたか？

当科では「脳ドック」も実施していますのでご利用下さい。

(脳神経外科医長 大塚 忠弘)



ホームページ

国立熊本病院
〒860-0008 熊本市二の丸1-5
電話 096(353)6501(代表)
FAX 096(325)2519
<http://www.hosp.go.jp/~knh>